【2025 年 11 月 月間予定表 ―木幡校― 】 ◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

１１月の予定		
1	土	土曜特訓（中３社 in 醍醐校） 19：30～開校
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	「新中１準備講座」スタート
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	『定期テスト攻略講座』（木幡中対象）
16	日	『定期テスト攻略講座』（木幡中対象）
17	月	
18	火	● 進路相談会開始
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	土曜特訓（中３英 in 醍醐校） 19：30～開校
30	日	

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【９月度のＭＶＰ】

●中３ Ｈ・Ｋ くん

体育祭の盛り上げ隊として輝いていました！

●中３Ｋ・Ｈ くん

積極的に自習に来る姿勢が Good！◎

●小５Ｋ・Ｓ くん

やる気 MAX！頑張る姿勢を評価！

１１月行事について

●進路相談会

いよいよ中３生は最終進路決定です。生徒一人ひとりに最適な学校をご提案します。

【 じっくり、ゆっくり！ 】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

「善きことは、カタツムリの速度で動く」by マハトマ・ガンジー

国民的人気マンガ「ONE PIECE」（ワンピース）
夢への冒険、仲間たちとの絆と友情をテーマに描かれるこの物語は、これから向かうべき時代の象徴です。
志を同じくする仲間こそ、人生最高の財産じゃないか、という価値観へのシフトです。
そんな「ONE PIECE」の生みの親、尾田栄一郎さんは、１７歳のときに短編漫画「WANTED！」が手塚賞の準入選に選ばれます。
これで、担当編集者がついてくれることになり、気をよくした尾田さんは、熊本県から上京してきます。
当時は、すぐトップになれるぐらいの気持ちでいたそうです。
しかし、現実は甘くなかった。
作品のネーム（あらすじ）を提出しても全然通らない。マンガは連載にはいたりませんでした。
「さすがに自分の力のなさに気付いて､そうすると壁がどんどん高く見えてくるわけです。１週間で１９ページも面白いマンガを描き続けるなんていうのは、人間にできる技じゃない。マンガ家になるべくして生まれた人にしかできないことなんだと思うようになって、ショックでしたよ」
描いても描いてもボツになる…。
尾田さんはついには、倒れて１週間ほど体が動かなくなったそうです。
そして、マンガ家になることすらあきらめようと思った。サラリーマンに今からなれるかなとも考えた。
でも、そのとき、当時の担当編集者がこう言葉をかけてくれた。
「こんなに頑張って報われなかったヤツを俺はいままで見たことがない」
必ず報われる日が来る、と。
ケンカばかりしていたその編集者が､ふと言ってくれた言葉に尾田栄一郎さんは泣いた…。
「また頑張れるぞ」
気力がわいてきた。
そこから立ち上がり、描き上げた作品が、あの「ONE PIECE」です。
連載の開始が１９９７年、尾田栄一郎さん２２歳のときです。

人生というシナリオには法則があります。
とことんまで頑張って、それでも結果は出ず、「もうダメだ」と力尽きるその瞬間に、人生を一変するシーンと出会うようになっているのです。
まさに「ONE PIECE」の世界観そのものです。

人は、力尽きるところまで頑張ったとき、
尽きることのない無限の力がわき上がるのです。

でも、人生って速さを競うレースではありません。
人生という競技は、速くなくていいんです。
前向きに進み続けることに意義があります。

雑草は硬いコンクリートをも突破して生えてきます。
微力でも、じっくりじっくり時間をかけるからこそ突破できるのです。
微力こそ、遠くへ行く秘訣です。
１００ｃｍずつ進む人は挫折します。
１ｃｍずつ進む人は成し遂げます。
人生においては、どこまで進むかは問題ではありません。
大切なのはスピードでもありません。
ゆっくりゆっくり歩み続けることです。
「止」まるのが「少」ないと書いて「歩」むです。
周りの風景を楽しみながら、ゆっくりゆっくり歩いて行こう。

雨だれが石をうがつのは、激しく落ちるからではなく、何度も落ちるからだ。
by ルクレティウス
急がず、しかし休まず。 by ゲーテ
急がず、しかも休む。 by 一休さん（笑）

塾長　山田　大介